

8/1・8/8に夏の高校生医師体験を行いました！
お申込みいただき、誠にありがとうございます😊

■体験内容■

- ★病棟回診見学
- ★模擬診察
- ★一次救命処置の
動画視聴
- ★医師Q&A



病棟回診見学

今年度は、当院の回復期リハビリテーション病棟で、実際に医師が回診している様子を見学していただきました。

当日は、リハビリテーション科の医師より患者さんの病状について説明をしたのち、胃瘻（※）を挿見したり、歩行をしている様子を見学しました。

参加された学生さんからは、「今まで実際に回診を体験したことがなかったので、回ってみて、日々の回復による変化がとても感動できるものだということが分かった」といった感想がありました。

胃瘻：口から食事ができない方に対して、胃に穴をあけて「胃ろうカテーテル」と呼ばれる管を通し、直接胃に栄養を入れる栄養補給方法です。鼻からのチューブなどに比べ、患者さんの苦痛や介護者の負担が少なく、喉などにチューブがないため、お口から食べるリハビリや言語訓練が行いやすいというメリットがあります。



★ わたり病院のリハビリテーションについて

脳血管障害、大腿骨骨折等の急性期治療を終えて症状が安定した方が入院し、集中的にリハビリテーションを行う病棟です。回復期リハビリテーション病棟では、機能回復と社会復帰・自宅退院を目指し、日常生活動作（ADL）の向上、寝たきりの防止、高次脳機能障害の改善のため、入院生活すべてがリハビリになります。

退院後の生活を想定し、医師・看護師・介護福祉士・理学療法士・作業療法士・言語聴覚療法士・医療ソーシャルワーカー・管理栄養士・薬剤師等がチームを組んで個別のリハビリテーションを行うことで、退院後も安全に自宅で生活できることを目指しています。



体験コーナー 模擬診察体験&動画視聴

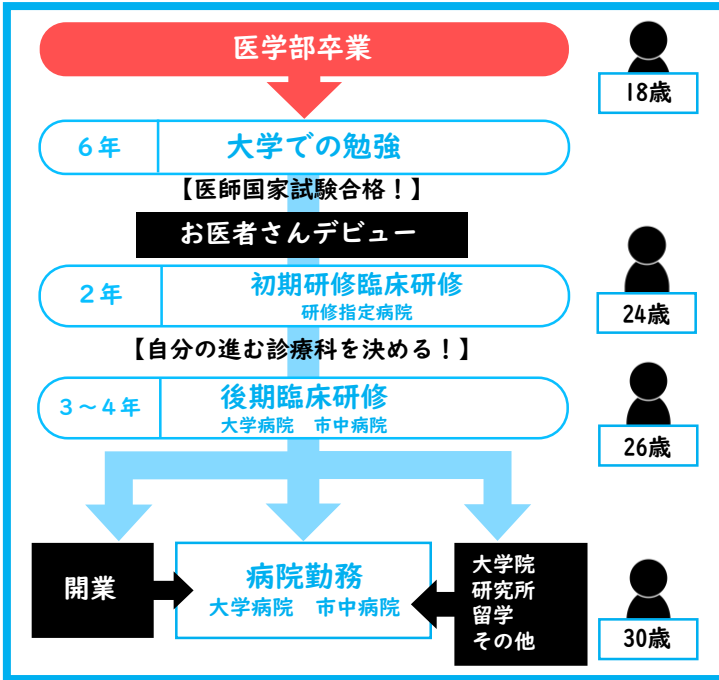
今年4月に入職された2名の研修医の協力のもと、模擬診察を体験していただきました。実際に当院の外来ブース内で、聴診器の使い方を教わっていました。

大学のオープンキャンパスなどで聴診器を使ったことがある学生さんが多くいらっしゃり、とても驚きました。

動画視聴では、一次救命処置をクイズ形式で答えていく動画を視聴していただきました。



医師Q&Aコーナー



実際に病院で働いている若手の医師と交流をしました。「どうして医師を目指そうと思ったのか？」など学生さんからは多くの質問が出ておりました。少しでも皆さんの進路選択に役立ったら幸いです。



左の図は、医師になるための流れを表したものです。医師は、医学部を卒業したからといってすぐに興味のある診療科に行けるわけではありません。国から指定された大学病院、または研修指定病院で2年間初期研修を行う必要があります。この2年間で、医師は基礎を学びます。

★ 寄せられた質問に回答します!

①福島県が抱える医療の課題は何だと思いますか?

医師の地域偏在だと思います。相双と会津地域（会津若松を除く）の病院は、医師が少なく、初療までに時間がかかるほか、重篤な病気・ケガをしたときには片道で1時間以上かかる病院へ搬送しなければいけない状態です。大雪の時には3時間以上かかることもあります。これは、町医者のような総合診療医がへき地に在籍していることはもちろんのこと、中核病院を増やす対応も必要になり、県全体で取り組んでいる課題です。

②医師の1日のスケジュール、仕事内容について教えてください。下記はあくまで1例です。

8:00	8:30	9:00	9:30	10:00	10:30	11:00	11:30	12:00	12:30	13:00	13:30	14:00	14:30	15:00	15:30	16:00	16:30	17:00	
	朝回礼診	外来						空き時間にお昼	★メイン：救急車の対応 病棟業務（担当患者さんの診療方針） 患者さんのご家族に病状説明・面談 書類作成（診断書の作成 等）										

③何故、医療生協わたり病院で働こうと思いましたか?

医療生協わたり病院は、県北で唯一『緩和ケア病棟』を持っており、地域からのニーズも非常に高い病院です。終末期医療に関心があり、緩和ケアの技術だけでなく、マインドも醸成できる環境として魅力を感じて働くことを決めました。これは入職して実感した個人的な印象ですが、わたり病院には他者に対して非常に優しく、思いやりのある職員が他と比べて多いと感じています。気持ちよく働ける良い職場だと思います。